

後援会だより

第36号

2023年10月31日発行

編集発行／鹿児島大学法文学部後援会

本誌の案内

○あいさつ	○令和5年度後援会総会（第21回）	3
後援会会長	○就職状況	4
法文学部長（後援会顧問）	○令和4年度決算・令和5年度予算	6
○ゼミ紹介	○令和5年度後援会役員一覧	6

後援会会長あいさつ

法文学部後援会会長 桑畑 安丈



本後援会会員の皆様には、日頃より後援会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この度、2023年度の後援会会長に就任させていただくことになりました桑畑と申します。これから1年間、

皆様のお力添えをいただきながら、微力ではございますが、誠心誠意努めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

2020年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面会議又はオンラインにて開催されておりましたが、本年度の後援会総会是对面での開催を実施することができました。ご参加いただきました皆様とは大変貴重な情報交換をさせていただくことができました。誠にありがとうございました。

さて、本年度がスタートして半年が経ちましたが、ようやく対面授業やサークル活動も可能となり、学生たちもコロナ禍以前と同様の大学生活が過ごせるようになってきていると思います。これから益々充実した大学生活を過ごすことを願っております。

なお、皆様ご存じかと思いますが、鹿児島大学HPにも掲載されておりますとおり、日経HRと日経新聞社が2023年6月7日に公表した企業の人事担当者から見た大学イメージ調査「就職力ランキン

グ」で、鹿児島大学が九州・沖縄の総合ランキング2位（全国15位）、「採用を増やしたい大学ランキング」全国2位と高い評価を受けています。企業の人事担当者からは、鹿児島大学卒業・修了生は、「人間力が高い印象を受けている」と高評価されたようです。

学生たちには、社会への準備期間である大学生活において、自分がやるべきことを考え、主体的に行動できる社会人としての能力を身につけて就職し、活躍することを願っております。

また、鹿児島大学は、同調査において「学習環境が整っている大学ランキング」でも全国1位と評価されており、先生方には、常日頃、高いレベルの教育を学生たちに提供しようとご尽力されていることに、この場をお借りし深謝いたします。

これからは、後援会活動を通して、学生を育成する一助となるべく、会員の皆様には今年度も本後援会の活動にご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



法文学部長あいさつ

法文学部長（後援会顧問） 松田 忠大

法文学部後援会会員の皆様には、日頃より法文学部・人文社会科学研究科の教育・研究活動に対して、多大なるご支援をいただいておりますことを心より感謝申し上げます。



今年5月には新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが変更されたため、現在、法文学部・人文社会科学研究科の授業は、原則として対面授業で実施されております。学生がキャンパスにあふれ、ようやく大学らしい姿を取り戻してきたように感じています。こうした状況を踏まえ、今年度の後援会総会は、35名の会員にご出席をいただき（教員の出席者は18名）、4年ぶりに対面形式で実施されました。この総会では、後援会の事業計画、予算・決算に関する審議のほか、後援会のご支援をいただいで研修等を実施した学生の成果発表も行われました。また、総会終了後に開催された懇親会には17名の会員にご出席をいただき、教員（出席者14名）との歓談が行われました。ご多忙にもかかわらず、ご出席いただきました会員には、この紙面を借りてお礼を申し上げます。

これまでもお伝えして参りましたが、コロナ禍においても、法文学部・人文社会科学研究科の教育・研究の質の低下を招かないよう、教員は様々な工夫や取組をして参りました。また、コロナ禍の中、設立された「鹿児島県の近現代」教育研究センターは設立1周年を迎え、学生も加えた形での鹿児島県の地域資源を活用した教育・研究活動も盛んに行われてきています。

ここ数年間は、学生の就職へのコロナ禍の影響も懸念されましたが、令和4年度卒業生の就職率は95.2%（確定値）となり比較的高い水準を維持できました。その一方で、卒業生の進路決定率は85.5%であり、やや低い状況が続いています。公務員試験再受験等の理由により進路が決定しなかった学生が進路未決定者の多くを占めています。各種公務員試験に合格するには、それに向けて早めに（学部1,2年次に）準備を始めることが重要です。また、少数ながら4年次になっても進路が

定まらない学生も存在します。指導教員のほか、全学的にも学生の進路決定を支援する様々な取組を行っていますが、早い段階で、ご家族でも学生の進路に関する相談の機会を設けていただけますとありがたく存じます。

法文学部後援会にいただいておりますご支援により教育・研究の充実が図られています。今後とも、法文学部・人文社会科学研究科の教育・研究活動へのご理解をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

ゼミ紹介

法文学部法経社会学科法学コース 社会保障法ゼミ

法文学部教授 伊藤 周平

日本国憲法25条は、国民の「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」（「生存権」といわれます）を明記し（25条1項）、生存権を保障する義務を国（自治体も含む）に課しています（同条2項）。私たちは、病気で働けなくなったり、障害を負ったり、突然、会社が倒産して仕事を失ったりと、個人の努力ではどうしようもない場面にしばしば遭遇します。そうした場合でも、健康で文化的な最低限度の生活が維持できるように、すなわち生存権を保障するために、国（自治体も含む）の責任で、生活を保障する仕組みが「社会保障」といわれるものです。社会保障法ゼミでは、こうした社会保障の法制度の現状と課題を学んでいます。

前期は、生活保護や年金裁判など判例を題材とした事例問題の研究を行っています。具体的な内容は下記の通りです。

- ◇社会保障法と憲法
- ◇生活保護法
- ◇介護保険法
- ◇障害者福祉の法
- ◇雇用保険法
- ◇年金法
- ◇医療保障法
- ◇児童福祉法
- ◇労災保険法

後期は、社会保障関係の小冊子を作成しています。これまで扱ったテーマは、下記の通りです。南日本新聞にも何度か紹介され、鹿児島大学図書館や広報センターをはじめ、鹿児島市役所や市内の公共図書館にも開架させていただいています。

- ◇改正介護保険法
- ◇障害者総合支援法
- ◇後期高齢者医療制度
- ◇社会保障・税一体改革－消費税と社会保障
- ◇子ども・子育て支援新制度
- ◇労災保険と過労死問題
- ◇年金制度と年金改革
- ◇新型コロナから雇用と生活を守るために

また、高齢者や障がい者施設の見学、生活保護受給者や生活困窮者の支援団体の人をゲストスピーカーとして招いて話を聞くなどの活動を行っています。

卒業生は、社会保障の知識を活かし、公務員になった人が多く、九州各地の県庁職員、市役所職員、国家公務員（裁判所事務官、国税専門官、労働基準監督官など）として活躍しています。



けた学生たちが活動体験報告を行いました。今年度は、法経社会科学科学生による「5大学合同ゼミ研究発表報告」・「留学体験報告」が行われました。パワーポイントを効果的に使用した報告で、学生の日頃の学習・研究の様子がよく分かるものでした。

総会終了後の懇親会には、保証人・教職員あわせて38名の参加があり、大学生活や教育内容、就職状況等について、活発な情報交換が行われました。コロナ禍により3年ぶりの開催となりましたが、その分を取り戻すかのような賑やかな懇親会でした。

皆様のおかげをもちまして、令和5年度後援会総会は盛況のうちに閉会いたしました。来年も多くの皆様のご参加をお待ちしております。



5大学合同ゼミ研究発表報告



留学体験報告

令和5年度後援会総会(第21回)

令和5年10月7日（土）に第21回法文学部後援会総会が開催され、保証人・教職員等あわせて60名が出席しました。総会では、松田学部長による挨拶の後、①会長および役員を選出、②令和4年度事業報告（案）、③令和4年度決算および監査報告、④令和5年度事業計画（案）、⑤令和5年度予算（案）について審議が行われ、原案通り承認されました。

次に報告事項として、藤内常任理事から令和5年度法文学部後援会への入会状況が説明されました。続いてキャリア形成支援委員長から昨年度の就職状況について報告が行われました。

最後に、後援会が行う教育研究活動への支援事業に関する理解を深めていただくため、支援を受



日本経済新聞社と日経 HR による「企業の人事担当者から見た大学のイメージ調査 就職力ランキング」におきまして、鹿児島大学は「大学の取り組みランキング」の部門で全国1位となりました（詳細は『日経キャリアマガジン特別編集 価値ある大学 就職力ランキング 2023-2024』に掲載）。本学が就職力に関してこうした高い評価をいただきましたのも、保証人の皆様のご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。

法文学部の就職状況も好調であり、令和4年度（2023年3月）卒業生の就職率は95.2%でした（表1）。これを地区別の就職状況で見ますと、鹿児島県内での就職が44.8%であり、九州・沖縄地区（鹿児島県を除く）が27%を占めます（表3）。また、産業分類別の就職状況を見ますと、公務員が118人と圧倒的に多く、次いで卸売・小売業（39人）、情報通信業（37人）と続きます（表2、表4）。法文学部が、地域的にも業種的にも多種多様な進路を目指すことのできる学部であることがお分かりいただけるかと存じます。なお、必ずしも卒業後すぐに公務員や民間企業へ就職する学生ばかりではなく、大学院へ進学する学生や、次年度以降の公務員・教員採用試験受験を目指す学生、起業する学生もいます。大学卒業後のキャリア・デザインを、学生一人一人が自分で描いていく時代になっています。

そうした各学生の進路構築を、法文学部は全学のキャリア形成支援センターと連携しつつサポートしています。法文学部では、各種の資格（中学校・高等学校教諭、学芸員、公認心理師、社会福祉主事、社会教育主事など）取得のために必要な授業が多数開講されているほか、インターンシップへの参加を前提とした授業もあります。また、各種の就職ガイダンスや就職・キャリア支援セミナーなどが開催され、学生の様々な業種へのチャレンジを後押ししています。そのほか、法文学部1号館1階には就職支援室があり、就職に関する個別の相談にも応じています。就職について相談することは、自分のキャリア・デザインを練り上げていくための機会にもなりますので、多くの学生に活用していただければと思っております。

なお、法文学部では、4年生に対して年に数回「進路状況調査」を実施しております。学生が自分の進路を確認したり、大学が学生をサポートしたりする上で重要な調査ですので、保証人の皆様からも回答を促していただければ大変ありがたく存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

1. 令和4年度卒業生の就職率 (令和5年5月1日現在)

学 科	法経社会学科	人文学科	合 計
就 職 希 望 者 数	219人	116人	335人
就 職 者 数	209人	110人	319人
就 職 率	95.4%	94.8%	95.2%

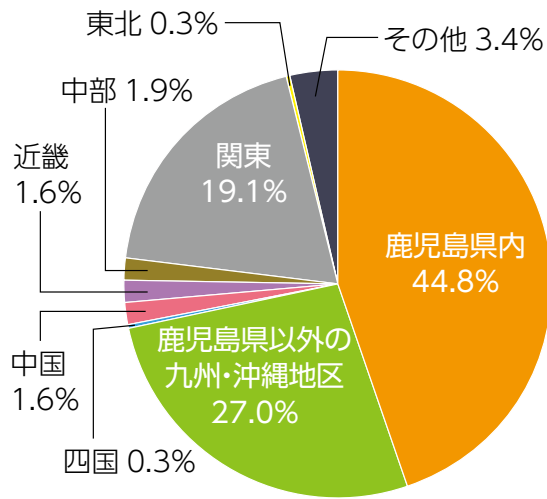
※各学科には平成28年度入学以前の旧学科学生を含む

2. 令和4年度卒業生の公民別就職内定者数 (令和5年5月1日現在)

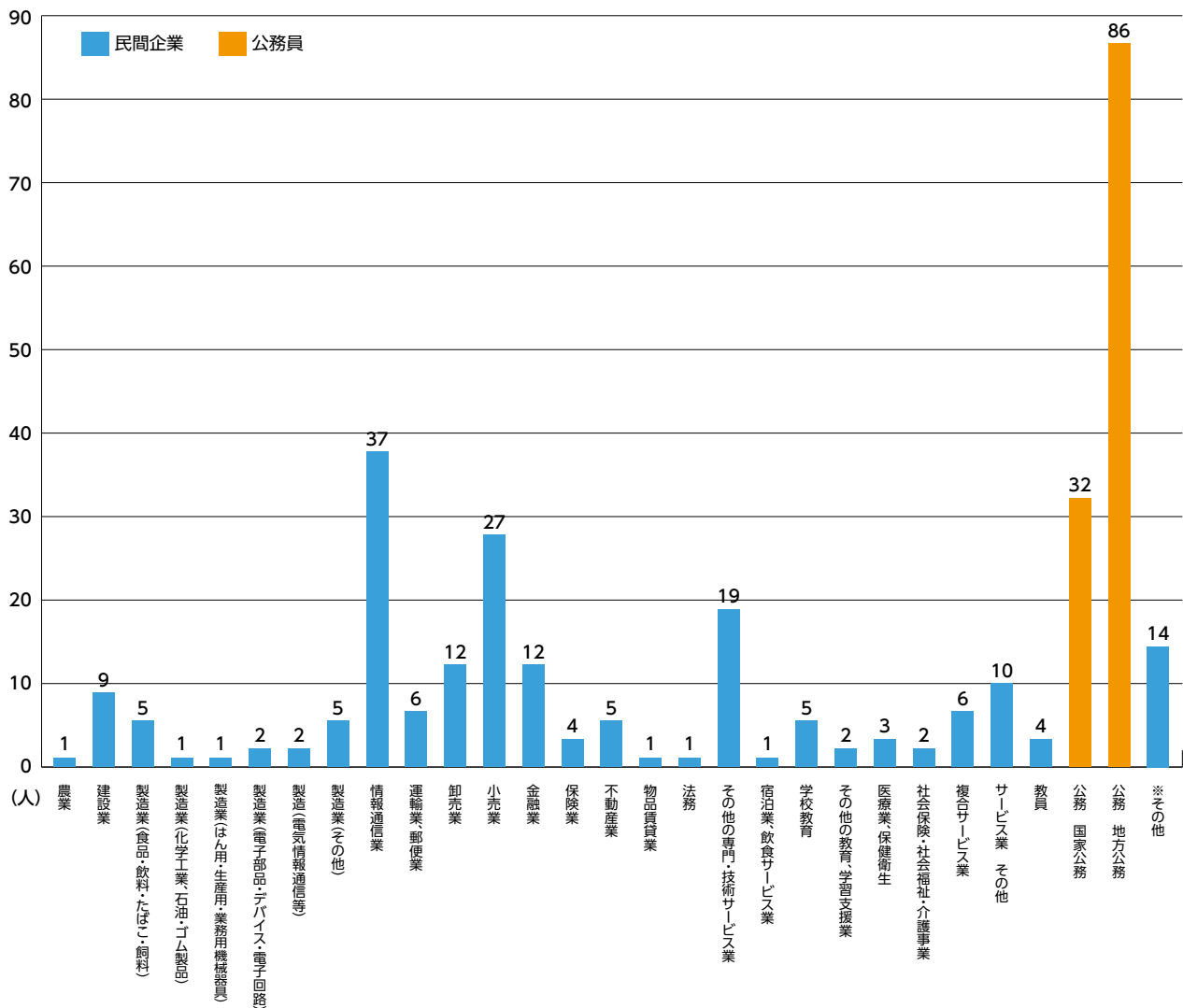
学 科	法経社会学科		人文学科		合 計	
	男	女	男	女	男	女
公 務 員	45人	47人	6人	20人	51人	67人
民 間 企 業	48人	69人	14人	70人	62人	139人
合 計	209人		110人		319人	

※各学科には平成28年度入学以前の旧学科学生を含む

3. 令和4年度卒業者の地域別就職状況



4. 令和4年度就職者数(319人)の産業種別内訳



令和4年度決算・令和5年度予算

【令和4年度 法文学部後援会決算】

会計期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日（単位：円）

		予算額(A)	決算額(B)	増減額(B-A)	概要
収入項目	① 本年度収入総額(A+B+C+D)	5,934,000	5,553,196	-380,804	
	A 正会員会費	5,230,000	5,105,000	-125,000	正会員数×5,000とほぼ一致
	B 特別会員会費	504,000	448,000	-56,000	教職員加入者数×8,000円
	C 賛助会員会費	0	0	0	同窓会員会費
	D 雑収入	200,000	196	-199,804	後援会総会・理事会の懇談会会費(参加者から徴収)、預金利息
② 前年度執行残余	9,417,859	9,417,859	0	前年度決算の執行残余金額と一致	
(1) 本年度執行可能額合計(①+②)	15,351,859	14,971,055	-380,804	本年度支出しても次年度以降の突発的な返還に支障のない金額	
支出項目	③ 事業費(a+b+c+d+e)	5,576,682	2,790,509	-2,786,173	
	a 学生の就職環境に関する事業	2,067,942	1,078,570	-989,372	就職支援室運営費、就職セミナー・講演会経費、就職ガイダンス参加学生交通費補助等
	b 学生及び教職員の教育研究活動に関する事業	1,685,500	307,312	-1,378,188	学生の国内外実習・研修旅費補助、留学単位修得支援、大学院生の学会発表支援等
	c 学生及び教職員の福利厚生に関する事業	35,000	35,000	0	学生レクリエーション行事経費補助等
	d 学部等の運営・教育環境の整備に関する事業	918,960	604,214	-314,746	学部長と学生との懇談会経費、卒業生・修了生卒業祝賀会経費支援等
	e その他本会の目的を達成するために必要な事業	869,280	765,413	-103,867	保護者と教員の懇談会、後援会だより印刷費、新入生オリエンテーション実施経費等
	④ 事務運営費	1,385,200	1,297,128	-88,072	後援会事務職員給与、通信費、消耗品費等
	⑤ 会議費	458,400	265,692	-192,708	懇談会経費(参加者から徴収)、後援会総会のお茶代等
	⑥ 予備費	200,000	63,800	-136,200	
	(2) 合計(③+④+⑤+⑥)	7,620,282	4,417,129	-3,203,153	本年度執行金額
(3) 本年度執行残余(1)-(2)	7,731,577	10,553,926	2,822,349	期末執行残余	
(4) 本年度未返還準備金	12,675,000	8,900,000	-3,775,000	本年度解散があった場合にも返還に支障のない最低準備金	
次年度繰越額((3) + (4))	20,406,577	19,453,926	-952,651	期末通帳残高と一致するべき金額	

※返還準備金とは正会員が最短修業年限分の会費を一括納入することに伴う、解散等不測の事態が生じた場合の返還に備えるための準備金。

【令和5年度 法文学部後援会予算】

会計期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日（単位：円）

		令和5年度予算	令和4年度予算	前年度差額	概要
収入項目	① 本年度収入総額(A+B+C+D)	5,947,000	5,934,000	13,000	
	A 正会員会費	5,235,000	5,230,000	5,000	正会員数×5,000円とほぼ一致
	B 特別会員会費	512,000	504,000	8,000	教職員加入者数×8,000円
	C 賛助会員会費	0	0	0	同窓会員会費
	D 雑収入	200,000	200,000	0	後援会総会・理事会の懇談会会費(参加者から徴収)、預金利息
② 前年度執行残余	10,553,926	9,417,859	1,136,067	前年度決算の執行残余金額と一致	
(1) 本年度執行可能額合計(①+②)	16,500,926	15,351,859	1,149,067	本年度支出しても次年度以降の返還に支障のない金額	
支出項目	③ 事業費(a+b+c+d+e)	5,732,990	5,576,682	156,308	
	a 学生の就職環境に関する事業	2,036,360	2,067,942	-31,582	就職支援室運営費、就職セミナー・講演会経費、就職ガイダンス参加学生交通費補助等
	b 学生及び教職員の教育研究活動に関する事業	2,136,270	1,685,500	450,770	学生の国内外実習・研修旅費補助、留学単位修得支援、大学院生の学会発表支援等
	c 学生及び教職員の福利厚生に関する事業	35,000	35,000	0	学生レクリエーション行事経費補助等
	d 学部等の運営・教育環境の整備に関する事業	796,000	918,960	-122,960	学部長と学生との懇談会経費、卒業生・修了生卒業祝賀会経費支援等
	e その他本会の目的を達成するために必要な事業	729,360	869,280	-139,920	保護者と教員の懇談会、後援会だより印刷費、新入生オリエンテーション実施経費等
	④ 事務運営費	1,366,200	1,385,200	-19,000	後援会事務職員給与、通信費、消耗品費等
	⑤ 会議費	458,400	458,400	0	懇談会経費(参加者から徴収)、後援会総会のお茶代等
	⑥ 予備費	200,000	200,000	0	
	(2) 合計(③+④+⑤+⑥)	7,757,590	7,620,282	137,308	本年度執行予定金額
(3) 本年度執行残余(1)-(2)	8,743,336	7,731,577	1,011,759	期末予定執行残余	
(4) 本年度未返還準備金	8,900,000	12,675,000	-3,775,000	本年度解散があった場合にも返還に支障のない最低準備金	
次年度繰越額((3) + (4))	17,643,336	20,406,577	-2,763,241	期末通帳残高と一致するべき金額	

※1 予算資料作成時点での既知の数値を活用。期中に加入があった学生の会費については前年度執行残余の活用によって調整する。

※2 返還準備金とは正会員が最短修業年限分の会費を一括納入することに伴う、解散等不測の事態が生じた場合の返還に備えるための準備金。

令和5年度後援会役員一覧

会 長：桑畑 安文	副 会 長：長屋 博保	理 事〔教 員〕：
顧 問：松田 忠大	常 任 理 事：藤内 哲也	(法経社会学科) 王 鏡凱、齋藤 善人、農中 至
理 事〔保証人・社会人学生(本人)〕：		(人文学科) 中島 祥子
(法経社会学科) 猩々 智子、桑畑 安文		(臨床心理学研究科) 宇都宮 敦浩
(人文学科) 平田 美保子、安永 信一		監 査：柳村 孝浩、平田 祐太郎
(人文社会科学研究科) 浦元 駿		監 事：村山 敬三
(臨床心理学研究科) 長屋 博保		

問い合わせ先 鹿児島大学法文学部後援会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 電話099-285-7510 (7602) FAX 099-285-7609
E-mail kouenkai@leh.kagoshima-u.ac.jp 後援会ホームページ http://www.kadai-houbun-kouenkai.jp/